

令和六年度に実施した対外

連携・支援事業

本会では、対外連携・支援事業を進めていますが、今年六月に区内の各学校及び地域機関に実施可能な活動をまとめた「学校・地域の活動を支援するボランティア一覧」を配布しました。今年度はこれに基づき学校等からの要請や直接の依頼を受け、多くの事業を行いました。これについて報告します。

1 各学校との連携・支援事業

① 9/5 太田小 生活科

「生き物と仲良し 岩槻城址公園見学」の事前指導（萩原会員、林会員）

② 9/17・20 西原小 家庭科

「ミシン指導」

の補助（林会員）

③ 1/31 太田小

生活科「昔遊び」

（吉田会員、萩原会

員、新里会長）



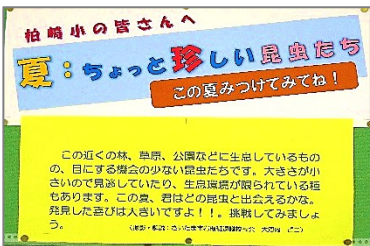
太田小 生きものと仲良し授業



柏崎小 昆虫写真と解説展示



太田小 昔遊び授業



④ チャレンジスクール

・9/7 城南小「竹トンボ制作」

（井上会員）

・9/7 新和小「科学実験教室 空気のふしぎ」（大河内副会長）

・9/9 城南小「ふしぎ昆虫の話」

（萩原会員）

・10/7 城南小「水中エレベーターを作ろう」（大河内副会長）

⑤ 昆虫写真と解説の掲示（大河内副会長）

・3/4～5/31 柏崎小「春を彩る昆虫たち」

・6/26～9/31 柏崎小「夏ちよっと珍しい昆虫たち」

・11/2～2/28 柏崎小「クモの世界 Part1 網を張らないクモたち」

・S o i a るーむ支援

・新和小（岡野会員）

・太田小（林会員）

2 地域との連携・支援事業

① 2/9 青少年育成岩槻地区会

「おもしろ科学教室」（萩原会員、萩元会員、佐藤副会長、大河内副会長）



サソリの登場にびっくり



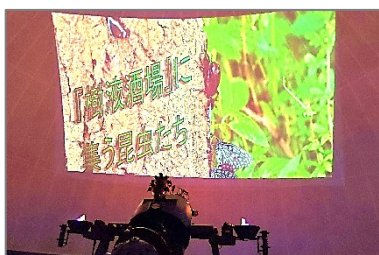
飛べ！僕のヘリコプター

3 岩槻児童センターとの連携事業

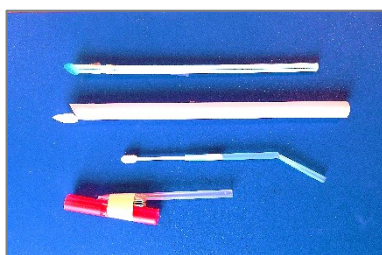
児童センターとの連携事業は、今年度も長

期休業期間を中心に実施しました。

- ① 3/23～5/15 昆虫写真と解説
 掲示「さいたま市内で見られる春の蝶たち」
 (大河内副会長)
- ② 4/2 ビックリー！実験ショー「笛って何？笛を作ろう」(大河内副会長)
- ③ 6/29 ホテル観察教室「実物を見てホテルの一生を知ろう」(中山会員)
- ④ 6/25～9/15 昆虫写真と解説
 掲示「クモの世界 Part1 網を張らないクモたち」(大河内副会長)
- ⑤ 8/6 スライド投影とお話し「樹液酒場に集う昆虫たち」(大河内副会長)
- ⑥ 8/20 ビックリー！実験ショー「空気のふしぎ」(大河内副会長、八木澤会員)
- ⑦ 8/24 竹細工教室「竹でお魚型のしぼり置きを作ろう」(井上会員)
- ⑧ 7月～9月 ジャコウアゲハとスズムシの生体展示(林会員、萩原会員)
- ⑨ 11/17 児童厚生会議(職員)研修会講演 「利用者からの相談にどう対応するか」(新里会長)
- ⑩ 11/20～2/28 昆虫写真と解説



ドーム内で樹液酒場のお話し



制作したストロー笛



実験ショー 風の力で風船を浮かべる



ドーム内でホテルのお話し

- 掲示「クモの世界 Part2 円網を張るクモたち」(大河内副会長)
- ⑪ 12/26 書道教室「上手になる書初め教室」(岡野会員)
 - ⑫ 12/28 ビックリー！実験ショー「おもしろ静電気」(大河内副会長、八木澤会員)
 - ⑬ 1/6 「昔遊びに挑戦しよう」
 (吉田会員、金塚会員)



写真展示 クモ Part 2



竹細工 魚型おしぼり置き作品

- ◎春季休業日に実施予定の事業
- ① 4/6 ビックリー！実験ショー
 「音って何？ストロー笛を作ろう」
 - ② 3/26 竹細工教室「よく飛ぶ竹トンボを作ろう」
 - ③ 3/22～5/10 昆虫写真と解説
 掲示「クモの世界 Part3 網(円網以外)を張るクモたち」



写真展示 クモ Part 2 タイトル



ジャコウアゲハの生体展示



上手になる書初め教室



昔遊び 福笑いに挑戦



静電気でモーターを回す



昔遊び こまはうまく回るか

◎今後に向けて

学校での事業はこれら以外にも実施されていますが、いずれにおいても働き掛けにより、子ども達の興味関心が高まることを実感しました。しかし、現実の学校では、新たなものを導入する余裕は少ないものと察します。

そこで、比較的時間の余裕があると思われる放課後や長期休業日、学年末等を活用して子ども達が輝ける場面を連携して作っていききたい

と考えます。そのために、変化し続ける学校教育の現状について情報共有を図り、連携支援の道を模索する機会が必要です。

一方、本会では「ボランティア一覧」の更なる周知と改訂の検討、新たな人材や活動の発掘も必須な課題になっています。

児童センターとの連携事業は定着し、リピーターの参加者もあり、順調に行われています。今後はマンネリ化することの無いよう事業の改善、開発を進めたいと思います。

事業の実施に当たっては毎回職員の皆様の事務処理や当日の補助等全面的にご協力をいただいております、改めて感謝申し上げます。

学校や地域との連携・支援事業の目的は、学校・地域での子ども達の健全育成を図る環境や場を整備することに私たちの持てる力を活用して、私たちは「貢献寿命」の延長を図り、学校や地域は運営のスリム化・効率化を図ることで、双方がウィンウィンの関係を作ることにあります。今後この目的に沿って活動を継続してまいりますので、ご参加・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(担当 副会長 大河内哲二)

寄稿

今年度の連携事業を振り返って

岩槻児童センター館長

小久保 雅基

班退職校長会との連携事業は毎回バージョニアップし、二年目を迎えました。多くの先生方には専門的な知識や技術を生かし、子ども達が興味関心を持ち楽しく過ごせる13種の講座を作っていただいています。

写真展示では、子ども達は「これ知っている」などと言いつつ目を丸くしていました。

またジャコウアゲハの観察では、幼虫から観察して、羽化した蝶を歓声を上げて見送りました。

プラネタリウムでの昆虫の生態についてのお話では、楽しく昆虫について知ることができました。特に初めて見る実物のホタルに歓声を上げていました。

ビックリ！実験ショーでは、科学と不思議をワクワクドキドキしながら知ることができました。

竹細工では、苦勞の甲斐あって素敵な出来栄に大喜びでした。

書初め教室では作品の出来に「自分でもビックリした」「全然違う上手な作品になった」など、満足の声がたくさん聞かれました。

昔あそび体験では「教え方上手ですぐにできた」「楽しかった」との声が多数あり、児童センターでは翌日からけん玉が大人気になりました。

今や連携事業は、子ども達そして児童センターにとっても不可欠な事業になりました。今後子ども達の目が輝く事業と一緒に展開させていただきたく思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。